レイモンド・S・ファイファー＆ラルフ・P・フォースバーグ著（高田一樹訳）
『48のケースで学ぶ職業倫理―意思決定の手法と実践』
（センゲージラーニング、2014年）

大　庭　弘　継

悩みを持たない人生は、おそらく存在しない。ときには、一睡もできないほど頭にこびりつく難題に悩まされたことは誰でもあるだろう。特に、仕事上での問題は厄介である。まず、誰にどう相談すれば良いのだろうか。守秘義務もプライバシーの問題もある中では、相談相手も話す内容も、気を許すことはできない。まして、解雇など他人の人生を狂わせる問題ではなおさらだ。

本書は、そういった悩みに対して、解答を与えるものではない（状況は人それぞれであり、安直な解答が逆に有害であることに異存なかろう）。だが本書は、考える道筋を与えてくれる。その道筋とは、本書で提唱されるRESOLVEDD戦略である。

RESOLVEDDとは、一文字づつチェック項目を示している。Review（確認する：ケースの背景や内容を詳しく調べる）、Ethics（倫理：ケースに関わる倫理問題を明確化する）、Solutions（解決策：主要な解決策を列挙する）、Outcome（結果：各解決策の帰結について述べる）、Life（人生：人間の生き方に及ぼす影響を記述する）、Values（価値：各解決策が守ったり傷つけたりする価値観を説明する）、Evaluation（評価：各解決策と帰結、そして影響、価値観を評価すること）、Decision（決定：最善の解決策を決断すること）、Defense（弁護：解決策の弱点を突く反論を想定し、弁護すること）、といった項目である（58−59頁）。

RESOLVEDD戦略で見出しうるのは、唯一の正解ではなく、（自分にとって）後悔が少ない「回答」である。多くの場合、ある倫理原則を優先するとき他の倫理原則を侵害する決断を下さなくてはならない。そしてより侵害の少ない選択をするために本書は、半分以上のページ数を費やして48もの詳細な事例を紹介し、訓練の機会を設けている。なお本書の訳文はこなれており、各事例も大

変わかりやすい内容で、学生・一般向けの教材として非常に役立つだろうことも明記しておきたい。

だがRESOLVEDD戦略を用いても、決断の結果に引き続いた結末の正しさまで保証するものではない。ケースの中には、中間管理職として部下を解雇すべきか否かという問題が数多く例示されている。たとえ、倫理的に判断して解雇を決定したとしても、解雇した労働者の個人的な恨みを買い、決断者が殺害されるという悲劇へと発展することもあるのである。多くの人々を納得させうる正しさがあっても、必ずしも平和な結末であるとは限らない。むろん、ここで挙げた限界は、誰も未来を知りえないという人間知性の限界そのものであり、考えても仕方のない問題かもしれない。

という無理難題でしかコメントできないほど、本書の完成度は高い。本書を利用して、多くの人々が後悔の少ない倫理的選択を下されることを切に願う。